



きいむんの

どろ〜ちゅいむにい〜

- 第4回 -

テーマ 沖縄の祭りの仮面神

豊年祭に来る来訪神

これから夏本番！な季節ですね。ハイサーイ。キジムンやいびーん！

沖縄の夏といえば祭り！ 沖縄の祭りに欠かせないのが来訪神。ニライカナイなどからやってくる多種多様な神様が、各地で厄をはらい、幸福を授けてくれます。今回はそんな仮面をかぶった沖縄の神様を一挙にご紹介します。今年はどれか一つでも祭りを見に行ってくださいね！

多種多様な神々

真っ白でふくよかなミルクは豊穡の神で、たくさんの子供達を引き連れて歩きます。その後ろから札束をちらつかせて子どもをかどわかそうと「オホホ！オホホ！」と言いながらまとわりつくのはオホホです。夜に出現するマユンガナシは杖をつき、蓑笠をかぶっています。秘祭とされるアカマタ・クロマタは、現在でも写真撮影が禁止です。真っ黒な顔に長い鼻を持つ神はダードゥーダーです。旧盆に祖先神として家に来るのはアンガマで、見物人相手に死後の世界について裏声で珍問答を繰り広げます。パーントゥは体の蔓草の上から全身の泥を集落内の人や物に塗りつけて厄払いをします。

国文・民俗学者折口信夫は、来訪神を表す「まれびと」という言葉を作りました。折口信夫は、「まれびとの最初の意義は、神であつたらしい。時を定めて来り臨む神である。大空から、海のあなたから、或村に限って、富みと齡と其他若干の幸福とをもたらして来るものと、村人たちの信じていた神の事なのである」（折口信夫「古代生活の研究」41頁）と言っています。

※画像は、『特別展 アジアの祭りと芸能〜仮面と音楽〜』沖縄県立図書館 1991 より

来訪神の舞台裏 パーントゥ（宮古島市平良島尻）

来訪神に扮する側の、いわば神様の舞台裏は、語られることはまずありません。その貴重な中の人が書いたエッセイが、神童「実況ぱーんとう 2005」。2005年に宮古島の有名な奇祭パーントゥで神に扮した体験を記しています。パーントゥ3匹が村内を走り回り、人々や物へ泥を塗りつけ、厄払いをします。それを軽妙な文章で、パーントゥの製作現場のことや当日の様子を明るく楽しく描き出していて必読です。

ほかにも、仮面をかぶらない来訪神も多数いますので、琉大附属図書館のホームページから、デジタルアーカイブ、BIDOM、iXiO を使ってキーワードで検索してみてくださいね！ たくさん面白い文献がひっかかりますよ。

(沖縄資料担当 S)

《参考文献》

- くまから・かまからライターズ編著『宮古島方言マガジン傑作選 くまから・かまから』ポーターインク、2006年
- 折口信夫全集刊行会編纂『折口信夫全集 2』中央公論社、1995年
- 『沖縄大百科事典』沖縄タイムス社 1983年